



安全安心な水を届けます！

下川浄水場の更新について

下川浄水場は、昭和44年に建設された施設で、給水開始から50年近くが経過し、老朽化が進んでいることから施設を更新する時期を迎えており、また、近年の異常気象で大雨による河川の濁りなど急激な水質変化にも対応していく必要があります。

そのため、平成29年発行の広報しもかわ8月号「下川浄水場建設基本計画」に着手しましたが、この度、基本計画がまとまりましたので、現在検討している下川浄水場の更新内容についてお知らせします。



お問い合わせ
建設水道課 建設・水道グループ
☎ 4-2511 内線254
☆ 4-251106

も対応可能な設備を検討しています。

●必要な処理機能
現在の浄水処理における水質は、国が定める基準値以下となっておりますが、新設の浄水場においても基準値以下を維持し、安全で安心な水道水の供給に努めます。



■処理目標の設定

項目名	水質基準	平成29年度結果 (現在の浄水場の結果)	処理目標 (新設浄水場の目標値)
有機物	3 mg/L 以下	0.4~0.8 mg/L	1 mg/L 以下
色度	5 度以下	0.3~0.7 度	1 度以下
濁度	2 度以下	0.1 度未満	0.05 度以下

■一般的な浄水処理方法の比較

区分	急速ろ過方式 (現在の浄水場)	膜ろ過方式			
		有機膜		無機膜	
		ケーシング	浸漬式	ケーシング	浸漬式
処理能力	△	◎	○	◎	◎
管理方法	1日8時間常駐	1日8時間常駐	1日2時間程度	1日2時間程度	1日2時間程度
建設工事費	◎	△	◎	◎	△
維持管理費	△	◎	◎	◎	○

◎優れている ○普通 △劣る

※急速ろ過方式

原水に薬品を加え、土砂や細かなゴミなどを濁りの固まりとして沈め取り除いた後の水を、砂を敷き詰めたろ過層によってろ過を行い、浄水処理する方法。

※膜ろ過方式

原水を圧力で膜ろ過設備に供給し、一定の大きさ以上の不純物を物理的に分離する方法でろ過を行い、浄水処理する方法。

※有機膜

ポリエチレンなどの材質による膜。

※無機膜

セラミックなどの材質による膜。

※ケーシング

原水を筒状の設備に通し、ろ過処理する方法。

※浸漬式

原水を水槽に浸して、ろ過処理する方法。



●浄水処理方法
現在の浄水場は、「急速ろ過方式」による浄水処理を行っていますが、近年は技術革新などによって様々な処理方式があることから、処理能力、管理のしやすさ、建設工事費や維持管理費などを考慮し現在検討しています。

●今後のスケジュール
平成31年度 必要な諸手続・条例改正
(給水人口や給水量の変更など)
平成32年度 実施設計
平成33年度 更新工事
平成34年度 更新工事
平成35年度 給水開始
※事業の進捗状況により変更になる場合があります。



現在の下川浄水場

